

■第3回草津市地域福祉推進市民委員会における主な御意見に対する対応・方針等について		
項目	主な御意見	対応・方針等
【公助について】	P39の「1. 計画の基本理念」の説明文の下段部分において、「…第4期計画がめざす地域共生社会の実現のためには、「自助」「互助」の精神に基づいた住民同士による福祉活動の強化や、複合化・複雑化した支援ニーズに対して行政や関係機関等による包括的な支援体制の強化が特に重要なものになります。」とあるが、「公助」が入っていないのではないか。	御意見を踏まえまして、「第4期計画がめざす地域共生社会の実現のためには、「自助」「互助」の精神に基づいた住民同士による福祉活動の強化や、複合化・複雑化した支援ニーズに対して「 公助 」をはじめとした行政や関係機関等による包括的な支援体制の強化が特に重要なものになります。」(P39)と「公助」という言葉を追記しました。
【災害や感染症について】	主要課題等、当計画の中で災害や感染症に関する項目が記載されているが、昨今、社会的に災害や新型コロナウイルス等の感染症が発生している状況があるので、例えば「基本目標4」で別建てするなど計画の中に明記されても良いのではないか。	御指摘のとおり、昨今の災害や感染症に係る視点は重要なものと考えており、福祉の仕組みづくりを示した基本目標3の中で、安全・安心な地域づくりとして位置付けるとともに、このうち特に重点的に取り組むべき事項の一つと考え、重点プログラム4としても設定をさせていただいたところでございます。 この度の御指摘を踏まえまして、計画の総論箇所である「第1章計画策定にあたって1. 計画策定の背景」の箇所(P3)、さらに、「第3章計画の理念と体系 1. 計画の基本理念」の箇所(P39)におきまして、「少子高齢化、核家族やひとり暮らしの増加、ライフスタイルの多様化にともない、一人ひとりが抱える生活課題も多種多様となっているとともに、 全国各地で多発する地震等の災害や新型コロナウイルス感染症等が発生する状況の中… 」(P3、P39)と追記し、計画策定の前提となる背景や理念の箇所におきましても、災害や感染症等の社会状況を反映させていただきました。
【人材育成について】	自助や公助と言われるが、これからは自助に重点をおいて自分たちがこの地域を作るんだというぐらいの意識を持たないといけない。担い手不足で地域は困っている。 他方で、基本目標1基本方向2に「ボランティアの育成」とあるが、本来ボランティアは自分の心の中から助けてあげようとする気持ちから始まるものであり、ボランティアを強制するような内容だとすれば違和感がある。	御指摘のとおり、地域における担い手の育成の視点は重要なものと考えており、「主要課題」、「基本目標1」、また、「重点プログラム」の中に位置づけているところでございます。 また、基本目標1基本方向2の中では、ボランティア意識を高めることで担い手の育成を進めること、既存のボランティア活動者への機会提供や地域内でのきっかけづくりを通して活動の裾野を広げるような取り組みの重要性を記載いたしております。(P50、P51)
【相談窓口や連絡先について】	例えば、生活困窮に関してはどこに相談に行けばよいのかなど、行政としての広報・PRができていないように感じる。こういった相談の窓口や連絡先を分かりやすく市民に伝える視点も重要ではないか。	御指摘のとおり、高齢、障害、生活困窮等の各種相談窓口や連絡先の広報・周知は、市民生活において重要な情報となりますことから、今後、効果的な周知方法を検討してまいります。
■その他 主な修正箇所		
項目	修正前	修正後
【重点プログラムについて】	重点プログラム3「 <u>地域共生社会の実現に向けた取組を進めます</u> 」	重点プログラム3「 包括的な支援体制の構築に向けた取組を進めます 」 ⇒近年、高齢・障害・生活困窮等、多様化・複合化する福祉ニーズに対して、分野横断的に対応していくことが求められています。 このため、地域共生社会の実現に向けた取組については計画全体に反映させていることから、重点プログラム3としては、地域共生社会の実現に向けた具体的な取組・仕組みを明示することとしました。
【計画卷末の資料編について】	—	P84以降「3. 草津市地域福祉推進市民委員会委員名簿、4. 策定経過、5. 用語の解説」を計画卷末に資料編として作成し、加えました。